

- 1978(昭和53)年～1997(平成9)年
  - ・政府米保管用に経済農業協同組合連合会(経済連)の倉庫として使用される(食糧庁指定(臨時)倉庫)



1994年



- 1988(昭和63)年
  - ・村上善男氏(当時弘前大学教育学部教授)が吉野町煉瓦倉庫を美術館にすべきだと提起、煉瓦館再生の会(代表 渋谷龍一氏)を設立。煉瓦館再生の会は20人ほどで組織され、「版画美術館」として活用されるよう倉庫内外でPRイベントを実施

- 1991(平成3)年
  - ・煉瓦館再生の会がPRの一環として、「現代日本版画展」をギャラリーデネガ(弘前市上瓦ケ町)にて開催。(6月19日-)畦地梅太郎、池田満寿夫、磯見輝夫、井上公三、恩地孝四郎、駒井哲郎、田島宏行、野田哲也、吹田文明、塚塚稔尚、前田常作、横尾忠則、吉田穂高ら32人の作品51点が展示された。特別出品としてサム・フランシス、ジャスパール・ジョーンズ、デビッド・ホックニー、棟方志功、下澤木鉢郎、関野準一郎の作品が展示される。(コミッショナー・西村勇晴(当時宮城県美術館企画科長))5日間で1000人近くの来場者があった。またギタリストの原莊介を迎え「プレ・パリ祭」と題したコンサート、原莊介と村上善男との二人の対談が行われた。

- 1994(平成6)年
  - ・弘前市が吉野町煉瓦倉庫設置構想を固める
  - ・11月5日、「アップル・パーティー」(主催:アップルフェア推進協議会)が吉野町煉瓦倉庫内にて開催。倉庫2階を会場に、「白樺のロシア文化と洋軽りんご文化」と題した講演会を開催される。(主催:弘前青年会議所)
  - ・生シードル15ℓ、200ml入りのシードル500本、リンゴのチキンロール揚げ、リンゴ巻き寿司などがふるまわれ、パーティー参加者は倉庫内で飲食を楽しんだ。(チケットは事前に完売、約350人の市民らが参加)
  - ・11月5日「いいりんごの日」に向けて、10月26日-11月5日の期間に、煉瓦倉庫と日本聖公会弘前昇天教会を対象に「赤レンガ・ライトアップ」が行われる(協力:東北電力弘前営業所、弘前地区電気工事業者組合)
  - ・初日には点灯式、煉瓦倉庫には1kw水銀投光器5基が取り付けられ、西側と中央部煉瓦壁面85mと屋根の一部を照明

- 1995(平成7)年
  - ・(協)弘前文化財建築研究所が「吉野町煉瓦倉庫調査報告書」を作成

- 1996(平成8)年
  - ・11月4日-5日、「'96ジャパンアップルフェア」(主催:アップルフェア推進協議会)が吉野町煉瓦倉庫にて開催。初日に煉瓦倉庫の活用法を考える市民ワークショップ「吉野町レンガ倉庫でまちづくりの夢を語ろう」が開かれる。(弘前大学住居学研究室)市内の小学生、商店街、消防関係者ら約80人が参加、5時間にもわたるグループ討議が行われた
  - ・11月5日、弘前大学ジャズ研究会の生演奏をバックに、リンゴを使った料理などを楽しむ「アップルパーティー・ジャズと林檎のシンフォニー」開催
  - ・東北大学工学部災害制御研究センターが「吉野町煉瓦倉庫の耐震性に関する調査・研究報告書」を作成

- 1997(平成9)年
  - ・弘前大学教育学部住居学研究室が「吉野町煉瓦倉庫再生利用計画に関する調査報告書」を作成

## 1980's-

- 1982(昭和57)年
  - ・村上善男、弘前大学教育学部教授就任に伴い、盛岡より弘前へ拠点を移す。三美画廊にて個展開催
  - ・吉井勇、逝去

- 1984(昭和59)年
  - ・「奈良美智・三浦孝治二人展」ギャラリーデネガにて開催される

- 1987(昭和62)年
  - ・村上善男、田中屋画廊にて個展開催。以後2003年まで同画廊にてほぼ毎年個展を開催



《レンガ造りの倉庫、吉野町》1984年  
撮影:今泉忠淳



《黒塚、吉野町》1984年  
撮影:今泉忠淳

## 1990's-

- 1991(平成3)年
  - ・台風19号(リンゴ台風)でリンゴが大被害を受ける
  - ・全国で赤煉瓦を活用したまちづくりを実践する人たちにより、「赤煉瓦ネットワーク」が結成される



左《北川端町》1990年  
撮影:今泉忠淳



右:《中央弘前駅》1995年  
撮影:今泉忠淳



煉瓦倉庫周辺の様子  
1994年